

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	放課後等デイサービス きらり庵				公表日	2026年 4月 1日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		児童指導員となるパート職員と、学生アルバイトも在籍していることから、支援者のバランスは良いと考える。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		パーテーションを介して集中できる空間と、全体が分かりやすく見えるプレイルーム、少しクールダウンしたい時の小部屋、スヌーズレン室、運動室もあり設備や環境はとてよい。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		目的に合わせて活動できる場所・空間となっている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		気持ちの切り替え時や対対応が必要であるケースによって個別の部屋を臨機応変に使用できるようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		月1回の職員会議や2か月に1回のパート会議にて、目標設定を共有しそれに対するの振り返りや課題について検討を積み重ねられた。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		家族が参加できるような活動（法人が協賛している映画鑑賞など）や研修会の案内ができた。保護者会も昨年度より継続して開催できた。	災害の訓練は年2回行い、広報誌でもその様子を掲載していたが、保護者にはあまり印象深くなかったようだ。もう少し訓練の内容やその後の様子などを工夫して情報発信できるようにしていく必要がある。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		2か月に1回パート会議を行い、業務面や支援面での改善、それに対する対応策と一緒に検討し支援に繋げている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		他事業所などから評価してもらえるような機会を法人として取り組めるように検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		研修の案内などは積極的に掲示し、希望者には参加してもらっている。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			公表が遅れているケースもあるため、計画的に速やかに行っていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		毎月の支援会議の中で数名をとりあげ、個人ではなく複数の視点で正しく捉え、分析し、振り返りを重ねることを大切にしてきた。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		毎日の活動計画日誌を作成。支援のポイントや目標・留意点などを分かりやすく確認し、昨日の支援記録を見てもらった上で支援に入ってもらっている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		毎月チームで活動会議を行っている。子どもたちのニーズを反映しながら、季節感や集団での力、個人の力を発揮できるように計画している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		毎日の活動の中で、目的に個人と集団に焦点を当てて計画している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		出勤時には活動日誌に目的やポイント、内容について打ち合わせを行い、パート職員出勤後も共有してからチーム支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援後よかった点、改善点について話し合いを行い、翌日ヒヤリはっとも含めて再度振り返りを行い、当日の支援に繋げている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		前日の記録を読み込んだ上で勤務することを徹底している。また毎月支援会議の中で、記録から行動分析を行い、本人像の把握に努めている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○		学生アルバイト所属の大学の学園祭や吹奏楽部に施設にきてもらってクリスマスコンサートなども企画。自立や自主性を多様な遊びを介して活動計画し支援を行っている。	地域交流の機会をさらに広げていく必要がある。地域の資源を活用して、地域のイベントや横のつながりである放デイ同士とも
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		「～したい」と思えるような活動や遊びをたくさん経験し味わう中で、自己選択に繋げている。また自己決定できるよう、絵カードや実物、写真、文字盤などを活用して意思決定に繋げている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			放デイ連絡協議会を介して横のつながりが再度構築されつつある。医療や学校、法人外の相談員との連携はまだ課題である。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			新生児との契約は現在はないため、就学前の情報を共有したケースは最近はない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			法人内の作業所への移行であったため、移行会議の参加や通所前作業所職員との情報交換、共有を行い、本人も家族も安心して通所ができた。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			地域のお祭りや避難訓練、図書館など交流の場を作っているものの、コミュニケーションを図ったり遊ぶなどの機会は作れていない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			法人内の他部署が代表で参加し、会議の内容を共有してもらっている。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			法人内、外での研修のちらしを積極的に配布し、案内継続的に行っている。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			日頃の事業所での様子やご家庭での様子を共有しながら、本人の思いや願いを探り実現できるように努めている。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			支援計画の説明以外にも必要に応じて家庭に訪問したり、事業所で面談を行っている。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○			年1回保護者会を開催している。内容は事前にアンケートを行い、テーマ学習会や日々の子どもの様子を動画で報告、グループに分かれてのディスカッション等を行ってきた。事業所への理解や保護者同士の繋がりを目的に継続している。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○				
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		○			毎月広報誌を発行していたが、今年度は滞ってしまう月があった。事業所や法人の情報を発信し、事業所への安心や理解に繋げてい
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○				
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○				
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○				法人の研修などは地域に発信しているもあるが、事業所の行事を案内したり招待するようなイベントは取り組めていない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			マニュアルは作成しているが、保護者への周知はできていない。現在マニュアルの見直しを図っているため、作成出来次第周囲を行う。訓練については、年2回行い、広報誌でも様子を報告している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○				
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○				医師による緊急時の対応書や服薬の変更があった際は情報の提示をお願いしており、個人ファイルにて保管している。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○				
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○				
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○				支援後ヒヤリハットを口答や文書にて報告し、事故に繋がらないようにチームで周知、改善に努めている。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○				事業所、法人内で虐待防止の研修を毎年必ず行っている。個人ではなく、チームで利用者を正しく理解し深めていくことや行動分析しながら検討、実践、見直ししていくことを日々大切にしている。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○					